

長崎市提案型協働事業 令和元年度実施事業

評価結果及び審査会コメント

◆評価項目及び評価結果

団体名	とらねこ文庫	担当課名	市立図書館
事業名	絵本で子育て応援“おひざで絵本”事業		
評価項目		評価基準	評価
①	協働のプロセス	・目的を共有し、相互理解を深めながら、対等・自立の立場で事業に取り組んだか。 ・協定書に明記した役割分担を十分に果たし、双方に十分協議しながら事業を進めたか。	A
②	目的・目標の達成度	・事業は予定通り順調に実施できたか。 ・事業の目的や目標を達成できたか。	A
③	市民の満足度	・事業の実施により、市民の関心や評価は高まったか。	B
④	協働の相乗効果	・協働で実施することにより、事業効果は上がったか。 ・事業の質の向上や、行政・市民活動団体間のネットワークが強化されたか。	B
総括		A	

※ 評価項目における評価基準

A…大変優れている B…優れている C…どちらともいえない
D…どちらかといえば不十分である E…不十分である

◆審査会コメント

子どもの年齢に応じた絵本を選ぶためのブックリスト「おひざで絵本～0歳からのオススメ絵本～」を制作し、配布や図書館のホームページに掲載することで、多くの人に認知され、共感が得られたことは評価できる。

引き続き、専門家の知見を参考にしながら、ブックリストのバージョンアップを図るとともに、図書館のホームページの掲載方法を工夫するなど普及を図っていただきたい。

また、今回の事業で増えた読み聞かせのスタッフのモチベーションの維持に努め、既存の活動と新たな活動を連携することで、当事業が広がっていくことを期待したい。

子育ては様々な人が関わり、一人ひとりの子どもの成長を見守っていくことが重要であることから、読み聞かせのプログラムで父親の参加を促したり、男性スタッフの育成に取り組むなど、父親や男性の読み手を増やすなど父親が参加しやすい環境を整え、多くの人読み聞かせの効果を感じられるよう取り組んでほしい。

長崎市提案型協働事業 令和元年度実施事業

評価結果及び審査会コメント

◆評価項目及び評価結果

団体名	DEJIMA BASE	担当課名	出島復元整備室
事業名	出島表門橋公園の賑わい創出に向けた社会実験実施事業		
評価項目		評価基準	評価
①	協働のプロセス	・目的を共有し、相互理解を深めながら、対等・自立の立場で事業に取り組んだか。 ・協定書に明記した役割分担を十分に果たし、双方に十分協議しながら事業を進めたか。	A
②	目的・目標の達成度	・事業は予定通り順調に実施できたか。 ・事業の目的や目標を達成できたか。	A
③	市民の満足度	・事業の実施により、市民の関心や評価は高まったか。	A
④	協働の相乗効果	・協働で実施することにより、事業効果は上がったか。 ・事業の質の向上や、行政・市民活動団体間のネットワークが強化されたか。	A
総括		A	

※ 評価項目における評価基準

A…大変優れている B…優れている C…どちらともいえない
D…どちらかといえば不十分である E…不十分である

◆審査会コメント

出島表門橋公園において、団体と担当課が問題意識を共有し、お互いの強みを活かして各種イベントを実施することで、公園に新たな賑わいが創出され、質の高い協働事業となったことは高く評価できる。提案型協働事業のロールモデルとして、経験したノウハウを他の団体や所属に広めることに努めてほしい。

事業の詳細をまとめた報告書は、図や写真などが掲載され、客観的で分かりやすい内容となっている。今後、同種の事業を実施する際の貴重な素材になると思われる。

当事業では、団体が様々な主体をつなぐブリッジとして、多くの人を巻き込む重要な役割を果たしたと言える。提案型協働事業としては、昨年度で終了したが、今後も出島の指定管理者など関係者と協働しながら、長崎の活性化に取り組んでいくことを期待したい。

長崎市提案型協働事業 令和元年度実施事業

評価結果及び審査会コメント

◆評価項目及び評価結果

団体名	Moshyw (もうセクハラを許さない女たちの会・ながさき)	担当課名	学校教育課
事業名	スクール・セクハラ防止啓発事業		
評価項目		評価基準	評価
①	協働のプロセス	・目的を共有し、相互理解を深めながら、対等・自立の立場で事業に取り組んだか。 ・協定書に明記した役割分担を十分に果たし、双方に十分協議しながら事業を進めたか。	A
②	目的・目標の達成度	・事業は予定通り順調に実施できたか。 ・事業の目的や目標を達成できたか。	A
③	市民の満足度	・事業の実施により、市民の関心や評価は高まったか。	B
④	協働の相乗効果	・協働で実施することにより、事業効果は上がったか。 ・事業の質の向上や、行政・市民活動団体間のネットワークが強化されたか。	B
総括		B	

※ 評価項目における評価基準

A…大変優れている B…優れている C…どちらともいえない
D…どちらかといえば不十分である E…不十分である

◆審査会コメント

協働を行うプロセスのなかで、団体と担当課が信頼関係を築き、互いの強みを発揮しながら、スケジュールに沿った取り組みができたことは評価できる。

また、実際の教育現場の声を聴き、その声を活かしたハンドブックづくりに取り組まれた点は、協働事業による成果といえる。

一方で、達成度とその効果はまだ途上である。スクール・セクハラによる被害者や加害者をなくそうとする目的から考えると、ハンドブックの作成が終わりではなく、いかに活用するかが重要であり、各校で研修を行ううえで、質の担保が必要であると感じられる。使い手によって本質を失うことがないように、研修に団体の専門性を組み込むなど、当該ハンドブックを効果的に活かす仕組みづくりを検討してもらいたい。

長崎市提案型協働事業 令和元年度実施事業

評価結果及び審査会コメント

◆評価項目及び評価結果

団体名	NPO 法人ながさきエコネット	担当課名	農林振興課
事業名	茂木南部地区における市民も参加できる営農環境の保全事業		
評価項目		評価基準	評価
①	協働のプロセス	・目的を共有し、相互理解を深めながら、対等・自立の立場で事業に取り組んだか。 ・協定書に明記した役割分担を十分に果たし、双方に十分協議しながら事業を進めたか。	B
②	目的・目標の達成度	・事業は予定通り順調に実施できたか。 ・事業の目的や目標を達成できたか。	B
③	市民の満足度	・事業の実施により、市民の関心や評価は高まったか。	B
④	協働の相乗効果	・協働で実施することにより、事業効果は上がったか。 ・事業の質の向上や、行政・市民活動団体間のネットワークが強化されたか。	B
総括		B	

※ 評価項目における評価基準

A…大変優れている B…優れている C…どちらともいえない
D…どちらかといえば不十分である E…不十分である

◆審査会コメント

長崎のビワの産地を守り、持続可能な活動を目指す当事業は、地方や農業を見直す機運が高まるなかで、社会的課題の解決を目的とする考えに沿った非常に重要な取り組みといえる。

中間報告会の時点よりも多くの人の関わりが見られ、本年度の活動に期待が持てる内容であったが、一方で、関係者以外の地域住民の関わりが、まだ不十分である印象を受けた。地域住民の事業に対する理解促進について、引き続き取り組んでいただきたい。

また、今後の法人化やオーナー制度については、実現に向けてより一層具体的な計画を立てて、取り組み始める必要がある。

地域全体でオーナー制度を盛り上げ、オーナーとなる参加者の満足度を高めるため、更に多くの人を巻き込み、理解が得られる仕組みづくりを期待している。

新型コロナウイルス禍において、当初想定していた事業スケジュールにも影響が出たり、今後の体験型事業についても、コロナに対応した事業展開を図る必要が生じることと思われるが、今後、他との差別化をしっかりと打ち出し、長崎を選んでもらえるような事業となるよう取り組んでほしい。